

事務事業及び予算の執行実績
(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立天竜特別支援学校

目 次

事務事業の概要	(□□□□□□)
事務執行の根拠法令調	(□□□□□□)
学校施設の概要	(□□□□□□)
在籍生徒調	(□□□□□□)
入学志願者及び入学者数調	(□□□□□□)
卒業生の動向調	(□□□□□□)
生徒の状況	(□□□□□□)
預 金 調	(□□□□□□)
郵便等受払調	(□□□□□□)
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	(□□□□□□)
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	(□□□□□□)
委託料に関する調	(□□□□□□)
負担金支出調	(□□□□□□)
建築工事調	(□□□□□□)
繰越工事調	(□□□□□□)
公有財産調	(□□□□□□)
借地借家等調	(□□□□□□)
行政財産貸付・使用許可調	(□□□□□□)
主要備品調	(□□□□□□)
公務中の事故等に関する調	(□□□□□□)
工事中の事故に関する調	(□□□□□□)
前回の監査結果等改善状況調	(□□□□□□)
職員調	(□□□□□□)
職員の年齢調	(□□□□□□)
健康管理	(□□□□□□)

事務事業の概要

1 概 況

(1) 学校の沿革

昭和 30 年 9 月 1 日	浜名郡赤佐村立赤佐小・中学校天竜荘分校として開設
昭和 31 年 4 月 10 日	町村合併により浜名郡浜北町立赤佐小・中学校天竜荘分校と校名変更
昭和 35 年 3 月 28 日	現在地に校舎竣工
昭和 36 年 4 月 1 日	静岡県に移管、静岡県立養護学校天竜分校となる
昭和 38 年 3 月 13 日	増築校舎竣工
昭和 39 年 4 月 1 日	静岡県立天竜養護学校に昇格
昭和 41 年 4 月 1 日	非結核性病弱者入学
昭和 44 年 3 月 25 日	講堂、普通教室 2、特別教室 3 竣工
昭和 48 年 4 月 28 日	国有地 (29,441 m ²) を買収
昭和 48 年 6 月 10 日	特別教室棟竣工
昭和 50 年 3 月 25 日	運動場拡張 (1,560 m ²)
昭和 54 年 4 月 1 日	訪問教育 (やまゆり学級、あかいし学級、在宅) 開設
昭和 55 年 3 月 20 日	本館 (管理、普通教室棟) 竣工
昭和 55 年 4 月 1 日	高等部開設 1 学年定員 10 人
昭和 57 年 3 月 15 日	体育館竣工並びに前庭整備
昭和 58 年 3 月 25 日	プール並びに付属棟竣工
昭和 58 年 3 月 31 日	訪問教育あかいし学級閉級
昭和 58 年 4 月 1 日	聖隷訪問学級開設
平成 2 年 1 月 26 日	運動場拡張 (1,048 m ²)
平成 6 年 8 月 25 日	高等部棟竣工
平成 20 年 4 月 1 日	静岡県立学校設置条例の一部改正により学校名を「静岡県立天竜特別支援学校」に校名変更
平成 22 年 3 月 31 日	聖隷訪問学級閉級
平成 25 年 4 月 1 日	5 病棟訪問教育開設
平成 28 年 4 月 1 日	校章変更

(2) 組織図

;

作業部会	○防災	○広報
	○展示	○交通安全

教頭

外部 機関・ 団体 等 協力 委員	静岡県就学支援委員会委員（校長）
	浜松市就学支援委員会委員（副校長・教頭）
	静岡県就学支援委員会専門調査員
	浜松市就学支援委員会専門調査員
	発達支援教育専門家チーム会議委員（コーディネーター）
	浜松市巡回相談員（コーディネーター・進路連携課）
	全病連理事・全病連心身症等研究会（校長）
	全病連・近病連 教育研究委員会推進委員 （自立活動課、研修課）
	心身症部会（自立活動課）
	脳性まひ部会（訪問１・２病棟 自立活動課）
	天竜地区学校警察連絡協議会（生徒指導課長）
	静岡県特別支援学校体育連盟理事（体育主任）
	静岡県高等学校文化連盟理事（高等部主事）
	専門部会副部長（美術担当）

各 種 委 員 会	学校評価委員会
	職員安全衛生委員会
	学校保健委員会
	学校施設開放委員会
	危機管理対策委員会
	生徒指導委員会
	交流教育推進委員会
	いじめ防止対策委員会
	校内就学支援委員会
	高等部入学者選考委員会
	高等部卒業進級認定委員会
	研究推進委員会
	ＩＣＴ教育推進委員会
	翔杉祭実行委員会
	アレルギー疾患等対応委員会
	教育課程編成委員会
	70周年記念事業実行委員会
	R8全病連静岡大会実行委員会

2 目指す学校像

合言葉 『みんな 笑顔で 分かち合う』

(1)教育目標

豊かな“心・学び・未来”

《目指す児童生徒像》

- ・自分の病状を理解し、自己調整できる人 【自分の身体を知る・自己理解】
- ・自他の良さに気付き、自信がもてる人 【主体的な表出や行動・自他の良さへの気づき】
- ・周囲の人や物と関わり、心豊かに生きようとする人 【関わる力・助けを求める力】

イ 目標具現化の柱

《守 る》児童生徒の命を守り、心の居場所として安心して学べる学校

《育 む》教職員の指導力や病弱教育の専門性の向上を目指し、児童生徒の心理的な安定や確かな成長を支え、病状や特性に応じた授業ができる学校

《つなげる》保護者・天竜病院・天竜厚生会・地域・原籍校・関係機関との連携を深め、センター的機能を発揮した支援・助言ができる学校

《チ ーム》教職員が互いに支えあい、チーム意識を大切にしたい、働きやすい学校

3 監査対象機関の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題（※太ゴシックは重点目標）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果○ と 課題・
守 る	実 際 的 な 危 機 管 理 体 制 を 構 築 し、様 々 な 緊 急 時 へ の 対 応 力 向 上	・緊急時における行動や役割を理解・判断し、行動することができたと答える教職員 100% ・自他の命や健康を大切にしている言動が増え、非常災害訓練等では命を守る行動がとれたと答える児童生徒 100%	学校評価、生徒指導課アンケート ・AB100% 児童生徒アンケート ・「できた」100%	A	○状況に応じた初動の動きや役割についての理解が深まり、実際の自然災害時や生徒捜索時などでは組織的対応力が向上した。 ○児童生徒の実態に応じた目的や事前事後学習がより充実し、児童生徒自身が自分事で考え行動することが増えた。 ・臨時地震情報発令時の対応等危機管理マニュアルの見直し。 ・様々な場面を想定した訓練や関係機関と連携した学習の充実。
	多 様 性 を 認 め、自 他 を 尊 重 し 合 い 高 い 人 権 意 識 を 持 っ た 児 童 生 徒 と 教 員	・学校全体の人権意識が高まったと答える教職員 100% ・児童生徒間、教職員間で挨拶や感謝等の言動が増えたと答える教職員 100% ・児童生徒の人間関係や学習上・生活上の困り感の把握に努め、早期に対応したと答える教職員 100% ・自立活動や道徳教育等の充実を図れたと答える教職員 100%	生徒指導課アンケート ・人権 AB97.7% 児童生徒アンケート ・挨拶「できた」91% 学校評価 ・挨拶 98% ・早期対応 100% ・道徳 AB96% ・自立活動 98%	A	○人権研修、外部講師による授業、日常的な啓発により互いを大切にした言動をとる風土ができつつある。 ○体罰、セクハラアンケート（児童生徒、保護者対象） 不適切な言動 なし ・アサーティブなコミュニケーション力のさらなる向上。 ○アンケートや日常的な関わりの中での早期発見をし、学部等組織的に対応することが増えている。 ・友達の良さに気付く高等部生徒100%の半面、自分の良さに気付く生徒は79%であり、自己肯定感を高める方策の検討。 ・道徳教育の充実をさらに図る。

育 む	○ J T による学校力の向上	・特別支援教育の基礎基本の理解を深め、自ら専門性の向上に繋がる取組を実施した教職員 100%	学校評価 AB98%	B	○教育相談や移行支援の適切なやり方等については○ J T による効果が高かった。 ・ミドルリーダー育成への組織的な方策を立て、実践する。
	I C T 機器等を効果的に活用した授業実践を展開する	・授業の中で、ICT 機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の興味関心や理解が深まったと評価する教員 80%	学校評価 ・学習の深まり 100% ・ICT 活用した支援 86%	A	○デジタル教科書や電子黒板の活用は視覚的な補助により、興味関心や授業理解が深まった。また、実態に応じた学習にも繋がった。 ・電子黒板等 ICT 機器の充実。
		・ICT を活用した復帰支援やリモート学習が増えた答える教職員 100%			○復帰支援登校前の原籍校とのオンライン面談、リモート学習は児童生徒の心理的安心感構築に繋がった。(小中) ○YouTube Live やテレロボ Kubi を活用し学校と病院を繋いだ遠隔授業は、より主体的に学習に参加する機会となった。 ・1・2 病棟での遠隔授業実践。
	病弱教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な実践を行う。	・ICT を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことができた教職員 100%	学校評価 ・ICT 活用 AB100% ・授業改善 AB100% ・実践 AB98%	B	○相互授業参観や実践紹介等を通じて、ICT 機器を積極的に活用する職員が増えた。 ・目的にせまる ICT 活用の授業改善の更なる推進。 ○研修や事例検討会等が専門性向上に繋がり、実態に応じた目標設定や指導実践に生かすことができた。 ・自立活動の目標をより意識して、日常生活での指導や教科指導に繋げていく。
		・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、児童生徒の成長を促す実践ができた教職員 100%			
つなげる	みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実させる。	・みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員 100%	学校評価 ・人材活用 AB100%	A	○地域や外部資源を活用した学習や体験学習により、コミュニケーション力や知識経験等学習が深まるが多かった。 ○高等部生徒がボランティアとして地域で活動する機会を設けたことにより、本校の理解啓発や自己有用感を得る意味のあるものとなった。

		・ホームページの計画的な運用及び授業や行事ごとの更新 100%	・HP の更新 75%		○ホームページがリニューアルした。全職員が研修を受け、ホームページの作成方法を習得した。 ・タイムリーなホームページの更新。
	個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立する。	・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし、連携できた教職員 100% ・児童生徒がなりたい自分をイメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員 100%	学校評価 ・連携 98% ・授業 92% 保護者アンケート ・連携 88% 病院アンケート ・連携 87.5% (5 病) 90% (1, 2b 病)	B	○個別の教育支援計画を活用し、支援会議で支援の引継ぎや助言を行うことができた。また、保護者や病院との情報共有を図りながら連携した。 ・原籍校（関係機関）と一貫した支援の充実。 ○個別面談や進路指導の積み重ねの中で、児童生徒が主体的に進路やなりたい自分について考えるようになってきた。 ・キャリア教育の考え方を押さえた上で、キャリアパスポートの有効活用方法の検討を行う。
チーム	「チーム天特」による全員参加の業務改善	・自分の設定した退勤時間を目指し、業務を計画調整した教職員 100%	学校評価より AB97%	A	○毎日の退勤時刻の可視化等により中期、短期、一日単位での業務遂行計画を考え、調整する教職員が増えた。
		・担当業務や行事の見直しを行ったり、改善したりした教職員 80% ・予算、施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員 100%	学校評価より ・業務改善 AB91% ・連携 AB100%	A	○学部主事を中心に部内職員の業務の把握、分担の見直し改善を行い、一部職員への負担が集中しないようにできた。 ○業務の見直しや改善実践例を紹介し、参考に取り組む職員もみられた。 ○事務と連携しながら進め、教育活動の充実を図れた。 ・教員が予算執行等の事務処理についての考え方や流れ等をより正しく理解する必要がある。
		・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員 100%	学校評価より AB96%	A	○資料の事前配布、時間内会議運営など定着してきている。また、会議回数についても見直し、改善した。

令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
守 る	実際の危機管理体制を構築し、様々な緊急時への対応力向上	・多様な訓練や研修を通して危機管理マニュアルを見直し、緊急時の判断力の育成を図る。	・児童生徒・職員は、緊急時（非常災害訓練等）に自分で考え判断し、命を守る行動することができたと答える児童生徒 80% 教職員 100%	危機管理課 生徒指導課 各学部
		・学校安全計画、学校保健計画に基づいた防災安全・保健教育を実施する。	・児童生徒の安全・安心を守っていると答える教職員 100%	
	多様性を認め、 自他を尊重し 合い高い人権 意識を持った 児童生徒と教 員	・人権研修や人権月間の充実。 ・児童生徒が自他の良さに気付ける自立活動や道徳教育等の充実。 ・人間関係づくりの授業や研修の充実。	・児童生徒間でお互いを理解したりの良いところを認めたりする言動が増えたと答える教職員 80% ・児童生徒の模範となり常に人権を守る言動を心がけている教職員 100%	生徒指導課 自立活動課 各学部
		・いじめの予防的取り組みと組織的対応の充実。	・児童生徒の人間関係や学習上・生活上の困り感の把握に努め、早期に対応したと答える教職員 100%	

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
育 む	児童生徒が安心して学べる 学校風土の醸成	・一人一人のニーズに応じた多様な学びの場を確保する。 ・学校生活や授業の満足度をアンケート等により見える化する。	・児童生徒それぞれの良さや持ち味を生かした学びがあり、誰もが活躍できる機会があると答える児童生徒及び教職員 80%	各学部 企画会 生徒指導課
	OJTによる 学校力の向上	・キャリアステージに対応した校内 OJT 研修を実施する。	・キャリアステージごとに求められ資質能力が向上したと答える教職員 80%	各学部 企画会
	ICT機器等を効果的に活用した授業実践を展開	・児童生徒の特性に応じた、興味関心や理解を深める ICT の活用方法の研修を実施する。 ・病院や原籍校、家庭と学習や復帰支援の充実を図る。	・ICT 機器やデジタル教材を効果的に活用し、児童生徒の味関心や理解が深まったと評価する教員 80% ・病院や原籍校及び家庭と連携が深まったと答える教職員 80%	各学部 教務課 自立活動課 情報課 事務部
育 む	病弱教育の専門性の向上を図り、その専門性に基づく効果的な実践	・一人一授業研究及び研修会・学習会を実施する。 ・自立活動の視点を取り入れ授業改善を行う。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業を実践することができた教職員 100% ・自立活動の視点に立った支援を授業にとり入れた教職員 80%	研修課
		・作成した整理図と個別の指導計画とのつながりを明確にした自立活動を実践する。	・整理図をもとに適切な目標と指導内容を設定し、個別の指導計画の目標を達成できたと答える教職員 100%	自立活動課 教務課

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
つなげる	みゅうの丘や地域・他機関との連携により、協同学習を充実	・みゅうの丘・地域・外部機関や学校間の連携した学習の充実を図る ・学校見学会や保護者参観会、ホームページにより病弱特別支援学校の啓発を図る。	・みゅうの丘や地域・外部機関の人材を活用した授業や地域や交流校と共に取り組む活動を実践できたと答える教職員 100% ・学校の教育活動を知ることができたと答える保護者・外部機関等関係者の評価 80%	各学部 進路連携課 情報課 みゅうの丘事務局 教科等部会
	個別の教育支援計画に基づいた連携体制を確立	・個別の教育支援計画に基づき、原籍校や他機関、保護者と連携して支援や助言を行う。 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進する。	・個別の教育支援計画を基に、原籍校や他機関、保護者に支援や助言をし連携できた教職員 100% ・児童生徒がなりたい自分をイメージし、主体的に進路を決定したり、身近な将来の目標を考えたりする授業実践ができた教職員 100%	進路連携課

取組目標		達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
チーム	「チーム天特」による全員参加の業務改善	・掲示板や文書共有、チャットを活用し、事務室との連携を図る。 ・目的や実態に合った活動計画の見直し行う。	・予算立案・執行や施設管理等事務室と密なやり取りし、協働連携ができたと答える教職員 100% ・担当業務や行事の見直しを行い、業務改善できた教職員 80%	各学部 各分掌 事務部
		・時間設定による会議の実施、資料の事前配付等による業務の効率化を図る。	・効率的な会議の運営や効率的な会議への参加ができたと答える教職員 100%	各学部 各分掌 事務部

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	ア 天竜病院や原籍校との連携による、発達障害をベースとした精神疾患の児童生徒に対する支援 ・原籍校へ配布している「連携スケジュール表」の評価と見直し ・朝の申し送りやカンファレンスへの参加と情報共有 ・天竜病院との日常的な連携	・「連携スケジュール表」を原籍校に配付し、確認をしながら丁寧に進めていくことができた。 ・追跡調査用紙でのアンケートの回収と集計を行い、連携の成果と課題を把握した。 ・電話、Zoom を使用して病院の朝の申し送りやカンファレンスへの参加を実施し、情報共有を行った ・病院との連絡会議での決定事項の周知を確実にし、病院との連携がスムーズに行えるようにした。
	イ 天竜病院・天竜厚生会・天竜特別支援学校の三者による「みゅうの丘」エリアの連携 ・「みゅうの丘」協議会の開催（年3回） ・各機関を利用した共同学習の開拓 ・防災訓練及び災害発生時の連携	・第1回協議会を7月に行い、年間活動計画、作業部会の組織編制等の確認、「みゅうの丘」主催イベントの検討を行った。 ・8月に地域の大型商業施設で三者合同のイベントを開催し、各施設の紹介やイベント運営を通じて地域への周知啓発を図った。三者の交流という点では今後工夫の必要あり。 ・防災や施設設備等各作業部会ごとの連携を強化していくために、全部会で活動内容や課題の確認を共有した。また年度末に各部会の活動報告を実施した。

令和7年度	ウ 小学部	・転出までの関係機関との支援の共有。 ・友達の良さに気付き、互いに認め合う児童の育成 ・児童の実態に合った支援に関する助言を行う。原籍校に対し、児童の特性に応じた発達障害に対する支援方法について助言を行う。	・原籍校が必要としている情報や、効果的な移行支援・助言について学部内で共有する機会を設けた。 ・復帰がスムーズにいくように、原籍校の担任や主任等と電話やオンライン等で情報共有したり参観依頼をしたりした。 ・いじめ予防の観点を含む人間関係づくりの授業（自立活動）を実施した。 ・ブロック長会、学部会を連動させながら、課題共有や課題解決にがん部全体であたることができた。
	エ 中学部	・生徒の病状や特性を理解し、学習環境を整え、対処行動を練習する場を設定 ・原籍校や関係機関（病院、家庭等）と継続した支援の連携 ・主体性を培うことができるための授業づくり	・病棟や原籍校からの情報や整理図を基に、生徒の病状に応じた適切な集団や場所等環境設定の仕方を学年、学部で検討し、指導に生かした。 ・復帰がスムーズにいくように、原籍校の担任や主任等と電話やオンライン等で情報共有したり参観依頼したりする。 ・自己肯定感を高め、多様性を認めあうために、授業や学級活動等で役割を持たせて頑張りを認めたり、学部全体での共同学習を実施したりするよう努めることができた。
	オ 高等部	・自己理解を深め、自分の生き方や働くことについて考え、自己決定できる進路指導 ・職業生活に必要な知識技能を高める天竜厚生会でのトライアル実習、産業現場等における実習 ・「わたしのトリセツ」、キャリアパスポートの作成（自立活動） ・自他への良さへの気付きを促す協働的な学習（行事等）	・実習をとおして、自己の長所や課題に気づき、実習経験から学んだことを日常生活に活かしたり、将来を考えたりする機会とした。その際に、「わたしのトリセツ」やキャリアパスポートを自己理解のツールとして活用することができた。 ・関係機関の講話や体験的な学習を行ったことは、人間関係づくりのポイントや進路実現のための方法や道筋を知ったり考えたりする機会となった。 ・スポーツ祭や学習発表会等集団活動をとおして、「相互理解」や「協力すること」の良さを感じる生徒が増えた。
	ア 天竜病院や原籍校との連携による、発達障害をベースとした精神疾患の児童生徒に対する支援	・原籍校へ配布している「連携スケジュール表」の評価と見直し ・朝の申し送りやカンファレンスへの参加と情報共有 ・天竜病院との日常的な連携	・「連携スケジュール表」を原籍校に配付し、確認をしながら丁寧に進めていく。 ・追跡調査用紙でのアンケートの回収と集計を行い、連携の成果と課題を把握し、今後に生かす。 ・電話、Zoomを使用して病院の朝の申し送りやカンファレンスへの参加を実施し、情報共有を行う。 ・病院との連絡会議での決定事項の周知を確実にし、病院との連携がスムーズに行えるようにする。
	イ 天竜病院・天竜厚生会・天竜特別支援学校の三者による「みゅうの丘」エリアの連携	・「みゅうの丘」協議会の開催（年3回） ・各機関を利用した共同学習の開拓 ・防災訓練及び災害発生時の連携	・第1回協議会を7月に行い、年間活動計画、作業部会の組織編制等の確認、各々の情報交換、「みゅうの丘」主催イベントの検討を行った。 ・8月に地域の大型商業施設で三者合同のイベントを開催し、各施設の紹介やイベント運営を通じて地域への周知啓発を図る。 ・防災や施設設備等各作業部会ごとの連携を強化していくために、全部会で活動内容や課題の確認を共有。年度末に各部会の活動報告を実施予定。

ウ 小学部 ・転出までの関係機関との支援の共有。 ・友達の良さに気付き、互いに認め合う児童の育成 ・児童の実態に合った支援に関する助言を行う。原籍校に対し、児童の特性に応じた発達障害に対する支援方法について助言を行う。	・原籍校が必要としている情報や、効果的な移行支援や助言、学部内で共有する学習会を実施予定。 ・役割分担しながら原籍校、家庭、病院、浜松市教委等との連絡を密にとる。 ・いじめ予防の観点を含む人間関係づくりの授業（自立活動）を実施する。 ・原籍校には、転入初期におけるオンラインでの授業参観の推進を行う。
エ 中学部 ・生徒の病状や特性を理解し、学習環境を整え、対処行動を練習する場を設定 ・原籍校や関係機関（病院、家庭等）と継続した支援の連携 ・主体性を培うことができるための授業づくり	・病棟や原籍校からの情報や整理図を基に、生徒の病状に応じた適切な集団や場所等環境設定の仕方を学年、学部で検討、整える。 ・復帰がスムーズにいくように、原籍校の担任や主任等と電話やオンライン等で情報共有したり参観依頼したりする。 ・自己肯定感を高め、多様性を認めあうために、授業や学級活動等で役割を持たせて頑張りを認めたり、学部全体での共同学習を実施したりする。
オ 高等部 ・自己理解を深め、自分の生き方や働くことについて考え、自己決定できる進路指導 ・職業生活に必要な知識技能を高める天竜厚生会でのトライアル実習、産業現場等における実習 ・「わたしのトリセツ」、キャリアパスポートの作成（自立活動） ・自他への良さへの気付きを促す協働的な学習（行事等）	・実習をとおして、自己の長所や課題に気づき、実習経験から学んだことを日常生活に活かしたり、将来を考えたりする機会にする。（「わたしのトリセツ」やキャリアパスポートを自己理解のツールとして活用。） ・関係機関の講話や体験的な学習を行い、人間関係づくりのポイントや進路実現のための方法や道筋を知ったり考えたりする機会を設ける。 ・生徒の自己理解や支援のニーズについての理解度や変化を捉えて支援を行う。 ・スポーツ祭や学習発表会等集団活動を通して、「相互理解」や「協力すること」の良さを体感できるような支援を行う。

5 教職員について

(1) 異動状況

職名 区分		本務職員											臨時職員等						合 計	
		教育職員					行政職員						本 務 計	教 諭	臨時養護教諭	臨時事務職員	非常勤養護教諭	非常勤労務職員		臨時 計
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主 事	主任技能員								
転出者	0	1	0	5	0	6	1	0	0	1	0	2	8	0	0	0	0	0	0	8
退職者	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	3
再任用 (退職)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
転入者	0	0	0	5	0	5	1	1	0	0	0	2	7	2	0	0	0	0	2	9
新任者	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	4
再任用 (新任)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
差引増減	0	-1	1	1	0	1	0	1	0	-1	0	0	1	-1	1	0	0	0	0	2

(2) 現員数

(令和7年6月30日現在)

職名 区分	本 務 職 員												臨時職員等							合 計
	教育職員				小 計	行政職員					本務 計	教 諭	臨時養護教諭	臨時事務職員	非常勤養護教諭	非常勤労務職員	臨時 計			
	校 長	教 頭	教 諭	養護教諭		事務長	主 査	主 任	主 事	主任技能員								小 計		
計	1	1	43	1	46	1	3	0	0	0	4	50	8	1	0	1	2	12	62	

*再任用教諭 フルタイム 1人

(3) 健康管理について

年度	取 組 内 容
令和6年度	教職員の身体的、精神的な健康の維持増進を図るため具体的方策を考える。 ア 定期健康診断（結核検診、生活習慣病健診、婦人科検診）をはじめ、人間ドック、脳ドック、指定年齢健診の受診を勧め、全員実施し、疾病の早期発見に努める。再検査が必要なすべての職員が再検査を行うよう働き掛けた。 イ 教育厚生課による腰痛健康診断・情報機器作業従事者健康診断を実施し、教職員の健康保持増進を図った。 ウ 職員安全衛生委員会を月1回開催し、健康管理医の指導を受け安全衛生に関する意識の高揚を図り、職場環境や健康に関するテーマについて質疑応答の時間も設けた。職場の健康づくり支援事業の活用について、10月末に実施した。（筋膜リリース、ハンドリフレ） エ 週1回の定時退庁日を設け、定時退庁を呼びかけ、心身の健康管理に注意を払う。完全施錠目標を19時とし、19時を過ぎる場合は各学部主事に申請をしている。年2回学部評価等でアンケートをとり、働き方の改善に努めた。 オ 感染症対策として、天竜病院の指導を受けながら手洗い・換気等基本的な感染対策、意識した自己管理について呼び掛けを継続的に行った。 カ 休養室を整備し、職場環境の改善及び教職員の健康管理に努めた。
令和7年度	教職員の身体的、精神的な健康の維持増進を図るため具体的方策を考える。 ア 定期健康診断（結核検診、生活習慣病健診、婦人科検診）をはじめ、人間ドック、脳ドック、指定年齢健診の受診を勧め、全員実施し、疾病の早期発見に努める。再検査が必要なすべての職員が再検査を行うよう働き掛ける。 イ 教育厚生課による腰痛健康診断・情報機器作業従事者健康診断を実施し、教職員の健康保持増進を図る。 ウ 職員安全衛生委員会を月1回開催し、健康管理医の指導を受け安全衛生に関する意識の高揚を図る。健康管理医との意見交換や、健康に関するテーマについて質疑応答する時間を設けている。また年6回、健康管理医による校内巡視の機会を設け、職場環境、学習環境等について助言をいただく。職場の健康づくり支援事業の活用について、10月末に実施を予定している。（教職員のニーズに合う講座、複数講座から選択制） エ 週1回の定時退庁日を設け、定時退庁を呼びかけ、心身の健康管理に注意を払う。完全施錠目標を19時とし、19時を過ぎる場合は各学部主事に申請をしている。年2回学部評価等でアンケートをとり、働き方の改善に努めていく。 オ 感染症対策として、天竜病院の指導を受けながら手洗い・換気等基本的な感染対策、意識した自己管理について呼び掛けを継続的に行う。 カ 休養室を整備し、職場環境の改善及び教職員の健康管理に努める。

(4) 教職員の研修について

年度	研修目的・内容	成果及び課題
令和6年度	ア 校内研修…「『主体的・対話的で深い学び』の視点での授業づくり」をテーマに、授業力を高める。 ・一人一授業研、事後研修による授業改善を行う。 ・目的にせまる ICT 機器やデジタル教材を活用した授業づくりを推進する。	・一人一授業研究を実施し、授業者・参観者相互に学んだことを授業改善に生かした。 ・助言者を招聘した研修を実施することで、専門力向上を図る機会を設けた。 ・教科部会等で授業設計シートを用いて、授業づくりの検討を行う。 ・研修課と情報課で連携し、ICT 活用が進む研修や実践例紹介など行った。
	イ 自立活動研修…病弱教育の専門性の向上を図る。 ・整理図をもとに適切な目標と指導内容の設定を行い、個別の指導計画を作成する。 ・外部講師や校内講師による病弱教育専門研修を行う。 ・学部ごとに事例検討会を行い、児童生徒の特性に応じた、ICT 機器、教材教具等の効果的な活用を図る。	・自立活動課と教務課で連携し、整理図や個別の指導計画の捉え方や作成についての説明会を実施した。（4月） ・自立活動全体研修を実施し、児童生徒理解や病弱教育に関する理解を深めた。 ・各学部で、適宜、自立活動学習会、事例検討会を実施し、指導内容や教材教具の活用について検討。ICT 活用については教務課、情報課と協働し進めることができた。
令和7年度	ア 校内研修…「『主体的・対話的で深い学び』の視点での授業づくり」をテーマに、授業力を高める。 ・一人一授業研、事後研修による授業改善を行う。 ・目的にせまる ICT 機器やデジタル教材を活用した授業づくりを推進する。	・一人一授業研究を実施し、授業者・参観者相互に学んだことを授業改善に生かしていく。 ・助言者を招聘した研修を実施することで、専門力向上を図る機会を設ける。 ・教科部会等で授業設計シートを用いて、授業づくりの検討を行う。 ・研修課と情報課で連携し、ICT 活用が進む研修や実践例紹介など行う。
	イ 自立活動研修…病弱教育の専門性の向上を図る。 ・整理図をもとに適切な目標と指導内容の設定を行い、個別の指導計画を作成する。 ・外部講師や校内講師による病弱教育専門研修を行う。 ・学部ごとに事例検討会を行い、児童生徒の特性に応じた、ICT 機器、教材教具等の効果的な活用を図る。	・自立活動課と教務課で連携し、整理図や個別の指導計画の捉え方や作成についての説明会を実施。（4月） ・自立活動全体研修（6月）を実施し、児童生徒理解や病弱教育に関する理解を深めた。 ・各学部で児童生徒の実態に応じた内容を設定し、医療や病弱教育に携わっている外部講師を招聘して研修を実施した。（6、7月）

6 防災対策について

年度	取 組 内 容	成果及び課題												
令和6年度	(1) 地震及び火災対策等危機管理対応 ア 防災訓練 年4回を計画	・年度初めに危機管理マニュアルを全職員で確認した。 ・4月の防災訓練では、避難方法のほか、本校東側付近など土砂災害の危険な箇所を回避して避難することができた。 ・5月の安否確認は、担当地区に分かれて研修を行い、担当地区の確認、生徒の自宅と避難地の所在地や周辺の情報にまた、災害対策班ごとの任務を確認した。 ・6月に天竜消防署から講師を招聘して、心肺蘇生法・AEDの講習会を行い、技術と知識を確認した。 ・7月には、外部講師を招聘し、本校の環境にあった防災教育についてグループワークを含む研修を実施する。 ・11月の避難訓練では、高等部は天竜厚生会への避難体験、簡易トイレ設置訓練を協働で行った。 ・2月の避難訓練は火災発生を想定して行った。 ・緊急時対応訓練を学部ごと実施。具体的な事例を想定し、状況に応じた対応、教職員の連携について確認し、意識の向上を図った。 ・8月の南海トラフ地震臨時情報発令を受け、校内の安全点検や保護者への注意喚起等実施した。また、発令時の教育活動についてマニュアルの見直しを図り周知に努めた。												
	<table><tr><th>月</th><th>内 容</th></tr><tr><td>4 月</td><td>地震・土砂災害（避難方法・経路の確認）</td></tr><tr><td>8 月</td><td>地震（引渡し訓練）</td></tr><tr><td>11 月</td><td>地震 （小中学部は起震車による地震体験、高等部生徒は災害時の救護活動訓練）</td></tr><tr><td>1 月</td><td>火災想定</td></tr></table>		月	内 容	4 月	地震・土砂災害（避難方法・経路の確認）	8 月	地震（引渡し訓練）	11 月	地震 （小中学部は起震車による地震体験、高等部生徒は災害時の救護活動訓練）	1 月	火災想定		
	月		内 容											
	4 月		地震・土砂災害（避難方法・経路の確認）											
	8 月		地震（引渡し訓練）											
	11 月		地震 （小中学部は起震車による地震体験、高等部生徒は災害時の救護活動訓練）											
	1 月		火災想定											
	イ 職員対象訓練													
	<table><tr><th>月</th><th>内 容</th></tr><tr><td>5 月</td><td>防災研修（安否確認）</td></tr><tr><td>6 月 7 月</td><td>心肺蘇生法・AEDの扱い方講習</td></tr><tr><td>5 月</td><td>緊急時対応訓練 ・熱中症 ・エピペン使用方法 ・頭頸部外傷発生時</td></tr><tr><td>7 月</td><td>防災研修会（外部講師）</td></tr><tr><td>11 月</td><td>天竜厚生会の防災訓練への参加</td></tr></table>		月	内 容	5 月	防災研修（安否確認）	6 月 7 月	心肺蘇生法・AEDの扱い方講習	5 月	緊急時対応訓練 ・熱中症 ・エピペン使用方法 ・頭頸部外傷発生時	7 月	防災研修会（外部講師）	11 月	天竜厚生会の防災訓練への参加
	月		内 容											
5 月	防災研修（安否確認）													
6 月 7 月	心肺蘇生法・AEDの扱い方講習													
5 月	緊急時対応訓練 ・熱中症 ・エピペン使用方法 ・頭頸部外傷発生時													
7 月	防災研修会（外部講師）													
11 月	天竜厚生会の防災訓練への参加													
(2) 荒天時対策 各種警報が発令された場合の対応を決め、保護者に周知する。	・保護者に各種警報が発令されたときの対応について危機管理委員会で再度検討し、より具体的に示した文書作成し直し、4月に配付し、ホームページに掲載した。また、PTA総会においても説明した。													
(3) 不審者対策 6月 不審者対応訓練 （児童・生徒、職員）	・荒天による臨時休校のため訓練は中止となり、10月に実施。天竜警察署の職員2人を講師に招聘し、全職員を対象として不審者対応訓練を行う。警察署員に不審者を演じてもらい、実際の場面を想定して行い、ビデオ撮影を見て振り返りを行った。													

令和7年度

(1) 地震及び火災対策等危機管理対応
ア 防災訓練 年5回を計画

月	内 容
4 月	地震・土砂災害（避難方法・経路の確認）
5 月	引き渡し訓練
8 月	地震・火災
11 月	地震 （小中学部は起震車による地震体験、高等部生徒は災害時の救護活動訓練）
1 月	火災想定

イ 職員対象訓練

月	内 容
5 月	防災研修（安否確認） 緊急時対応訓練 心肺蘇生法・AED の扱い方講習
7 月	防災研修会（外部講師）

(2) 荒天時対策
各種警報が発令された場合の対応を決め、保護者に周知する。

(3) 不審者対策
6 月、10 月不審者対応訓練
（児童・生徒、職員）

・年度初めに危機管理マニュアルを全職員で確認した。

・4 月の防災訓練では、避難方法のほか、本校東側付近など土砂災害の危険な箇所を回避して避難することができた。

・5 月の安否確認は、担当地区に分かれて研修を行い、担当地区の確認、生徒の自宅と避難地の所在地や周辺の情報にまた、災害対策班ごとの任務を確認した。

・6、7 月に天竜消防署から講師を招聘して、心肺蘇生法・AED の講習会を行い、技術と知識を確認した。

・7 月には、大学教授を講師として招聘し、本校の環境にあった防災教育についてグループワークを含む研修を実施。

・11 月の避難訓練では、高等部は天竜厚生会への避難体験、簡易トイレ設置訓練を協働で行う。

・1 月の避難訓練は、火災発生を想定して行う予定である。

・緊急時対応訓練を小学部（体育授業中）を想定して実施。状況に応じた対応、教職員の連携について確認し、意識の向上を図った。

・保護者に各種警報が発令されたときの対応について4 月に配付、ホームページに掲載した。また、PTA 総会においても説明した。

・6 月、10 月に実施天竜警察署の職員 2 人を講師に招聘し、全職員を対象として不審者対応訓練を行う。警察署員に不審者を演じてもらい、実際の場面を想定して行い、ビデオ撮影を見て振り返りを行う。

7 学校開放について

(令和7年6月30日現在)

年度	施設名	種目等	利用回数	利用者数 (延べ人数)	利用者負担金 (電気料金)
6年度			0回	0人	0円
7年度			0回	0人	0円

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、 第 74 条、第 75 条、第 76 条、第 77 条、第 80 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学指導委員会規則 特別支援学校の高等部の学科を定める省令 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第 80 条、第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 4 条、第 15 条、第 27 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第 1 条～第 4 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費 補助金交付要綱 要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特殊教育就学奨 励費補助金交付要綱 いじめ防止対策推進法

□□□□□□

学校施設の概要

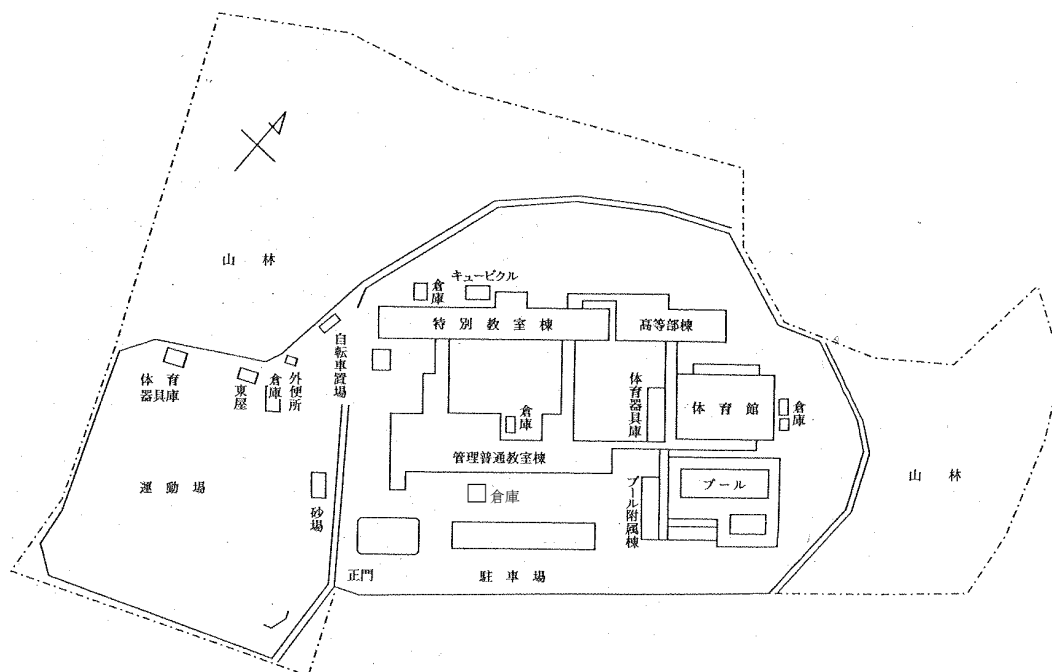
1 面積及び所有区分

(令和7年6月30日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		29,441.02	29,441.02					
内 訳	校舎敷地	7,800.00	7,800.00					
	運動場敷地	4,375.43	4,375.43					
	その他の敷地	17,265.59	17,265.59					
校 舎		<u>建 1,934.70</u> 延 4,083.89	<u>建 1,934.70</u> 延 4,083.89					
体 育 館		<u>建 621.81</u> 延 500.25	<u>建 621.81</u> 延 500.25					
その他の建物		<u>建 189.40</u> 延 189.40	<u>建 189.40</u> 延 189.40					
プ ー ル		250.00	250.00					大 25m×8m 小 10m×5m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	29,441.02㎡	4,083.89㎡	4,375.43㎡
県平均	19,266.88㎡	6361.36	5,302.07㎡

□□□□□□

在 籍 生 徒 調

(令 和 7 年 6 月 30 日 現 在)

学 年	学 部 別		小 学 部			中 学 部			高 等 部			
	区 分		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1 年	入 学 者		1	1	2	0	2	2	18	12	4	16
		増 加	0	0	0	2	2	4		0	0	0
		減 少	0	0	0	0	1	1		0	0	0
	現 在		1	1	2	2	3	5		12	4	16
2 年	入 学 者		0	2	2	1	0	1	21	13	4	17
		増 加	4	1	5	9	4	13		0(1)	0	0(1)
		減 少	4	1	5	8	3	11		1	0	1
	2 年時当初		0	2	2	2	1	3		13	4	17
		増 加	0	0	0	3	2	5		1	1	2
		減 少	0	0	0	0	1	1				
	現 在		0	2	2	5	2	7		14	5	19
3 年	入 学 者		1	0	1	0	0	0	12	8	3	11
		増 加	0	0	0	12	3	15		0(1)	0	0(1)
		減 少	1	0	1	10	2	12		1(1)	0	1(1)
	2 年時当初		0	0	0	2	1	3		7	3	10
		増 加	3	1	4	13	8	21		0	0	0
		減 少	1	1	2	14	7	21		0	0	0
	3 年時当初		2	0	2	1	2	3		7	3	10
		増 加	0	0	0	4	4	8		0	0	0
		減 少	2	0	2	1	1	2		0	0	0
	現 在		0	0	0	4	5	9		7	3	10
4 年	入 学 者		1	0	1							
		増 加	2	0	2							
		減 少	1	0	1							
	2 年時当初		2	0	2							
		増 加	5	0	5							
		減 少	6	0	6							
	3 年時当初		1	0	1							
		増 加	6	4	10							
		減 少	2	4	6							
	4 年時当初		5	0	5							
		増 加	2	6	8							
		減 少	3	1	4							
	現 在		4	5	9							

学 年	学部別 区分		小 学 部			中 学 部			高 等 部			
			男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
5 年	入 学 者		2	0	2							
		増 加	3	1	4							
		減 少	2	0	2							
	2 年時当初		3	1	4							
		増 加	12	2	14							
		減 少	11	2	13							
	3 年時当初		4	1	5							
		増 加	3	0	3							
		減 少	4	0	4							
	4 年時当初		3	1	4							
		増 加	9	1	10							
		減 少	10	1	11							
	5 年時当初		2	1	3							
		増 加	5	2	7							
		減 少	0	1	1							
	現 在		7	2	9							
6 年	入 学 者		0	0	0							
		増 加	1	1	2							
		減 少	0	0	0							
	2 年時当初		1	1	2							
		増 加	5	1	6							
		減 少	4	2	6							
	3 年時当初		2	0	2							
		増 加	8	2	10							
		減 少	7	1	8							
	4 年時当初		3	1	4							
		増 加	8	3	11							
		減 少	8	3	11							
	5 年時当初		3	1	4							
		増 加	8	1	9							
		減 少	10	1	11							
	6 年時当初		1	1	2							
	増 加	0	1	1								
	減 少	0	1	1								
現 在		1	1	2								
合 計			13	11	24	11	10	21		33	12	45

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度		
学 科 別		小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高	小	中	高
生徒定員 (A)				12			18			12			21			18
募集者数 (B)				12			18			12			21			18
志願者数	男			9(0)			9(0)			8(0)			13(0)			13(0)
	女			0(0)			4(0)			3(0)			4(0)			4(0)
	計(C)			9(0)			13(0)			11(0)			17(0)			17(0)
受検者数	男			9(0)			9(0)			8(0)			13(0)			13(0)
	女			0(0)			4(0)			3(0)			4(0)			4(0)
	計(D)			9(0)			13(0)			11(0)			17(0)			17(0)
合格者数	男			9(0)			9(0)			8(0)			13(0)			13(0)
	女			0(0)			4(0)			3(0)			4(0)			4(0)
	計(E)			9(0)			13(0)			11(0)			17(0)			17(0)
志願倍率(C)/(B)		0.75			0.72			0.92			0.81			0.94		
受検倍率(D)/(B)		0.75			0.72			0.92			0.81			0.94		
入学者数	男	2	2	9	1	0	9	1	0	8	0	1	13	1	0	12
	女	0	1	0	0	0	4	0	0	3	2	0	4	1	2	4
	計(F)	2	3	9	1	0	13	1	0	11	2	1	17	2	2	16
充 足 率(F)/(A)		0.75			0.72			0.92			0.81			0.89		

□□□□□□

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制	0			0
	定時制	0			0
	通信制	0			0
特別支援学校高等部		0			0
その他高等学校等		0			0
大学等	大学(学部)		1	0	1
	短期大学(本科)		0	0	0
	大学・短大の通信教育学部等		0	0	0
	その他大学等		0	0	0
特別支援学校高等部専攻科			0	0	0
専修学校(専門課程)		0	1	0	1
専修学校(一般課程)・各種学校		0	0	0	0
公共職業能力開発施設等		0	0	0	0
就 職		0	4	0	4
上 記 以 外 ※		0	6	0	6
不 詳 ・ 死 亡		0	0	0	0
計 (卒業者総数)		0	12	0	12

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設		0	0	0	0
障害者支援施設		0	5	0	5
(うち就労系支援事業利用者)		(0)	(5)	(0)	(5)
医療機関		0	0	0	0
計		0	5	0	5

□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年6月30日現在) (単位：人)

市町名	浜松市	磐田市	袋井市	掛川市	湖西市	森町	その他の市	県外	合 計
生徒数	66	3	1	1	2	2	8	7	90
構成比%	74%	3%	1%	1%	2%	2%	9%	8%	100%

(2) 通学方法 (令和7年6月30日現在) (単位：人)

区 分	徒 歩	交通機関	送迎	自 転 車	その他(訪問)	合 計
生徒数	35	23	2	13	17	90
構成比%	39%	26%	2%	14%	19%	100%

(3) 訪問教育の状況 (令和7年6月30日現在) (単位：人)

訪問教員等			市 町	浜松市(天竜病院)
小・中 学 部	教 諭	5	小学部	9
	講 師	3	中学部	7
高等部	教 諭	2	高等部	4
	講 師	0		
計		10	計	20

2 部(クラブ)の加入状況 (令和7年6月30日現在) (単位：人)

区 分		高等部(本校)			
		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		0	1		1
男子	1 年	0	12	0	12
	2 年	0	12	0	12
	3 年	0	7	0	7
	計(A)	0	31	0	31
	構成比	0%	100%	0%	100%
女子	1 年	0	4	0	4
	2 年	0	4	0	4
	3 年	0	2	0	2
	計(B)	0	10	0	10
	構成比	0%	100%	0%	100%
合計	(A+B)	0	41	0	41
	構成比	0%	100%	0%	100%

3 障害別児童生徒数 (令和7年6月30日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
小学部	単一障害	0	0	0	8	6	2	16	6
	重複障害	0	0	0	0	0	0	0	0
	肢体重複	2	2	0	1	3	0	8	3
	合 計	2	2	0	9	9	2	24	9
中学部	単一障害	3	6	9				18	4
	重複障害	0	0	0				0	0
	肢体重複	2	1	0				3	1
	合 計	5	7	9				21	5
高等部	単一障害	16	16	9				41	5
	重複障害	0	0	0				0	0
	肢体重複	0	3	1				4	2
	合 計	16	19	10				45	7

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年6月30日現在) (単位:人)

区 分	統合失調症 うつ病	その他の 精神疾患	重度重複 障害	その他	計
小学部	0	1	0	11	12
中学部	5	9	0	2	16
高等部	1	17	0	23	41
訪 問	0	1	15	5	21
計	6	28	15	41	90

□□□□□□

預 金 調

(令和 7 年 6 月 30 日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
静岡銀行西鹿島支店	無利息型 普通預金	0328444	静岡県立天竜特別支援学校 資金前渡者 湯本健治	0	給料
静岡銀行西鹿島支店	無利息型 普通預金	0328455	(自振口)静岡県立天竜特別支援 学校 資金前渡者 湯本健治	0	電話料、 後納郵便料、 社会保険料
静岡銀行西鹿島支店	普通預金	0073224	天竜特別支援学校就学奨励費 代理受領者 湯本健治	0	就学奨励費
残 高 合 計				0	

□□□□□□

郵便等受払調

(令和 7 年 6 月 30 日現在)
(単位：枚、円)

区分	種類	6 年度						7 年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵便	1 円券	94	94	2	2	96	96	0	0	0	0	0	0	0	0	通信用
〃	10円券	6	60	130	1,300	62	620	74	740	0	0	3	30	71	710	〃
〃	26円券	0	0	48	1,248	48	1,248	0	0	0	0	0	0	0	0	〃
〃	84円券	50	4,200	58	4,872	108	9,072	0	0	0	0	0	0	0	0	〃
〃	110円券	0	0	32	3,520	17	1,870	15	1,650	43	4,730	32	3,520	26	2,860	〃
〃	120円券	62	7,440	0	0	13	1,560	49	5,880	0	0	4	480	45	5,400	〃
〃	124円葉書	2	248	0	0	0	0	2	248	0	0	0	0	2	248	〃
〃	430円レター パックライト	0	0	0	0	0	0	0	0	10	4,300	0	0	10	4,300	〃
計			12,042		10,942		14,466		8,518		9,030		4,030		13,518	
収入印紙	200円	0	0	1	200	1	200	0	0	0	0	0	0	0	0	会計用
〃	40,000円	0	0	1	40,000	1	40,000	0	0	0	0	0	0	0	0	〃
計			0		40,200		40,200		0		0		0		0	

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5 年度	6 年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	1,539,120	1,658,030	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,132,780	1,190,860	0
計					2,671,900	2,848,890	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,298,000	4,070,000	0
計					1,298,000	4,070,000	0
(16) 公有財産購入費					0	0	0
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	476,300	1,447,050	0
計					476,300	1,447,050	0
(18) 負担金、 補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	133,400	183,760	0
計					133,400	183,760	0
(21) 補償、補填 及び賠償金					0	0	0
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表
(令和7年6月30日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	0	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	0
計					0	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,100,000	1,100,000
計					1,100,000	1,100,000
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	0
計					0	0
(18)負担金、 補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	46,220	0
計					46,220	0
(21)補償、補填 及び賠償金					0	0
計					0	0

(令和6年度)

[illegible]

委託料に関する調

整理 番号	委託業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約結 締方法	契約期間	支出 年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト(株)	2,257,200	2,154,240		2,154,240	一般	7.4.1～8.3.31		円	電気工作物に対する保安上の点検業務	
2	浄化槽保守点検業務	(株)ハマエイ	29,700	29,700		29,700	随契	7.4.1～8.3.31		円	浄化槽の保守点検業務	随契１号（少額）
3	ガスヒートポンプ保守点検業務	フジテック(株)	638,000	638,000		638,000	随契	7.6.3～8.3.31		円	ガスヒートポンプの保守点検業務	随契１号（少額）
4	産業廃棄物収集運搬処分業務	サンワ環境整備(株)	産業廃棄物収集運搬料 ８㎡コンテナ　１車５,５００ 処分料　　　　 １台８８,０００	産業廃棄物収集運搬料 ８㎡コンテナ　１車５,５００ 処分料　　　　 １台８８,０００		産業廃棄物収集運搬料 ８㎡コンテナ　１車５,５００ 処分料　　　　 １台８８,０００	随契	7.7.22～7.10.31		円	産業廃棄物の収集運搬及び処分	随契１号（少額）
	合計	４件								円		
参考 １	警備業務	セコム(株)	/	円 4,389,000	円	円 4,389,000	/	6.10.1～ 11.9.30	/	/	校長室、事務室、職員室、パソコン室、理科準備室、保健室の機械警備業務	天竜高校
参考 ２	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合	/	19,250,000		19,250,000	/	7.4.1～ 8.3.31	/	/	消火器、自火報、消火設備、非常放送・自家発電等の点検業務	浜松湖北高校
参考 ３	可燃物収集運搬処分業務	(株)リサイクルクリーン	/	運搬料 天竜高校・天竜特支 1回3,300 天竜高校春野校舎・浜松湖北高校佐久間分校 1回7,700 処分料 1kg14.3		運搬料 天竜高校・天竜特支 1回3,300 天竜高校春野校舎・浜松湖北高校佐久間分校 1回7,700 処分料 1kg14.3	/	7.4.3～ 8.3.31	/	/	可燃ごみの収集運搬及び処分業務 天竜高校 週２回 天竜高校春野校舎・浜松湖北高校佐久間分校 週１回 天竜特支 月２回	天竜高校
参考 ４	プール浄化装置保守点検業務	清化工業(株)	/	995,500		995,500	/	7.4.10～ 7.12.26	/	/	プール浄化装置の点検業務	浜松東高校
	計	４件							/	/		

□□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	天竜病院総合汚水処理施設使用料負担金	独立行政法人国立病院機構天竜病院	総合汚水処理施設の利用に関する覚書による	総合汚水処理施設維持管理	円	
					12,230	6.6.7
					12,230	6.7.5
					12,230	6.8.8
					12,230	6.9.5
					12,230	6.10.10
					12,230	6.11.7
					12,230	6.12.6
					12,230	7.1.10
					12,230	7.2.5
					12,230	7.3.10
					12,230	7.4.4
					12,230	7.4.30
	小計				146,760	
2	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟会費	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟規約による	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育の推進他	5,000	6.6.7
3	全国病弱虚弱教育研究連盟学校負担金	全国病弱虚弱教育研究連盟	全国病弱虚弱教育研究連盟規約による	全国病弱虚弱教育の研究推進他	10,000	6.6.10
4	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会大会参加費	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会開催要項による	全国病弱虚弱教育の研究推進他	5,000	6.7.12
5	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会大会参加費	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会開催要項による	近畿東海北陸地区病弱虚弱教育の推進他	2,000	6.7.16
6	全国特別支援学校病弱教育校長会会費	全国特別支援学校病弱教育校長会	全国特別支援学校病弱教育校長会会則による	全国特別支援学校病弱教育学校経営の調査研究他	15,000	6.9.13
計		6件			183,760	

□□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)
(令和7年6月30日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物 管理責任者講習会	公益財団法人日本 産業廃棄物処理振 興センター	特別管理産業廃棄 物管理責任者新規 専任のため	特別管理産業廃棄 物管理責任者講習	円 13,200	7.5.20
2	天竜病院総合汚水処 理施設使用料負担金	独立行政法人国立 病院機構天竜病院	総合汚水処理施設 の利用に関する覚 書による	総合汚水処理施設 維持管理	13,020	7.6.6
3	全国病弱虚弱教育研 究連盟研究協議会大 会参加費	全国病弱虚弱教育 研究連盟研究協議 会	全国病弱虚弱教育研 究連盟研究協議会開 催要項による	全国病弱虚弱教育 の研究推進他	5,000	7.6.11
4	全国病弱虚弱教育研 究連盟学校負担金	全国病弱虚弱教育 研究連盟	全国病弱虚弱教育 研究連盟規約によ る	全国病弱虚弱教育 の研究推進他	10,000	7.6.20
5	近畿東海北陸地区病 弱虚弱教育研究連盟 会費	近畿東海北陸地区 病弱虚弱教育研究 連盟	近畿東海北陸地区 病弱虚弱教育研究 連盟規約による	近畿東海北陸地区 病弱虚弱教育の推 進他	5,000	7.6.27
計		5件			46,220	

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	天竜特別支援 学校キュービ クル内機器更 新工事	浜松市天竜区 渡ヶ島地内	円 4,103,000	円 4,070,000	円 0	円 4,070,000	指名
2	教育管理費	天竜特別支援 学校ボイラー 室揚水ポンプ 及び配管更新 工事	浜松市天竜区 渡ヶ島地内	円 1,727,000	円 1,100,000	円 0	円 1,100,000	随契
		合計	2件	5,830,000	5,170,000	0	5,170,000	

事 調

(令和6年度)

受注者	着手 完成 年月日	支出済額	工事概要	公有財 産台帳	摘要
松川電気(株)	着手 6.11.28 完成 7.2.28	円 4,070,000	キュービクル内トランス及び変圧器 更新	済	指名 令達年月日 6.9.24 最終支払年月日 7.3.28
(有)三晃設備	着手 7.2.27 完成 7.4.25	円 0	ボイラー室揚水ポンプ(北棟分) 及び配管更新	—	随契1号(少額) 令達年月日 7.2.3 最終支払年月日 7.5.27 R6繰越 繰越工事調(1/1)
		4,070,000			

□□□□□□

建 築 工

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	天竜特別支援 学校ボイラー 室揚水ポンプ 及び配管更新 工事	浜松市天竜区 渡ヶ島地内	円 1,727,000	円 1,100,000	円 0	円 1,100,000	随契
		合計	1 件	1,727,000	1,100,000	0	1,100,000	

事 調

(令和7年度)

受注者	支出済額	着手 完成 年月日	工事概要	公有財 産台帳	摘要
(有)三晃設備	1,100,000	着手 7.2.27 完成 7.4.25	ボイラー室揚水ポンプ(北棟分) 及び配管更新	—	随契1号(少額) 令達年月日 7.2.3 最終支払年月日 7.5.27 R6繰越 繰越工事調(1/1)
	1,100,000				

□□□□□□

繰越

整理 番号	予算科目	予算科目	事業(箇所)名 及び内訳	事業箇所	契約額	前年度施行支 払額	繰越額
		県立学校修繕費			円	円	円
1	教育管理費	工事請負費	浜松市天竜区 渡ヶ島地内	浜松市天竜区 渡ヶ島地内	1, 100, 000	0	1, 100, 000
		合計	1 件	1 件	1, 100, 000	0	1, 100, 000

工 事 調

(令和 6 年度から 7 年度へ繰越分)
(令和 7 年 6 月 30 日現在)

同左支出済額	支出未済額	契約締結方法	受注者 (受託者)	着手 完成(予定) 年月日	繰越理由
円 1,100,000	円 0	随契	(有)三晃設備	着手 7.2.27 完成 7.4.25	揚水ポンプの納品に当初は1～2週間程度とのことであったが、契約時にメーカー在庫がなくなってしまったため、納品に1ヶ月程度かかった
1,100,000	0				

□□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	6年3月31日現在		増		減		7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	数量又は面積	台 帳 格	
行政財産		千円 549,409		千円 4,055		千円 20,554		千円 532,910	
土 地	m ² 29,441.02	371,882	m ²		m ²		m ² 29,441.02	371,882	
立木竹	本 206	1,884	本		本		本 206	1,884	
建 物	m ² 建 2,745.91	102,242	m ²		m ²		m ² 建 2,745.91	87,165	価格改定
	延 4,773.54						延 4,773.54		
工作物	個	73,401	個	4,055	個	5,477	個	71,979	新設 価格改定
	64		1				65		
公有財産に 準ずるもの		236						236	
電話加入権	件 4	236	件		件		件 4	236	

令和7年度中増減なし

□□□□□□

借 地 借 家 等 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区分	種 別	所在地	地 目		数量又は面積	借 料		契 約 間 期 間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台 帳	現 況		単価 円	年額 円			
1	土地	敷地	浜松市浜北区於呂 4201-2 独立行政法人国立病院 機構天竜病院	土地	下 水 (暗渠)	152.1m ²		無償	7.4.1 ～ 10.3.31	独立行政法人国立病院 機構天竜病院長	下水道 使用
2	〃	〃	〃	土地	土地	0.52m ²		505	7.4.1 ～ 10.3.31	〃	案内板 設置
	計							505			

□□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年 額			
1	土地	学校 敷地	浜松市 天竜区 渡ヶ島 201-2	学校 用地	学校 用地	本 5	1,500	円 7,500	7.4.1 ～ 12.3.31	西日本電信電話 ㈱静岡支店長	電柱敷地 電柱2本 支線3条
2	〃	〃	〃	〃	〃	本 5	1,500	7,500	7.4.1 ～ 12.3.31	中部電力パワー グリッド㈱ 浜北営業所 配電建設グルー プ長	電柱敷地 電柱2本 支柱1本 支線2条
3	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 219.48	194	42,570	7.4.1 ～ 8.3.31	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	水道送給水 管敷地
4	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 7.40		免除	3.4.1 ～ 8.3.31	浜松市長	地震対策用 防災倉庫敷 地
5	建物	事務 所建	浜松市 天竜区 渡ヶ島 201-2	R C 造 3 階建	R C 造 3 階建	m ² 0.03		免除	3.4.1 ～ 8.3.31	浜松市長	地震対策用 同報無線戸 別受信機
6	〃	〃	〃	〃	〃	m ² 0.36		免除	6.4.1 ～ 11.3.31	浜松市長	地域防災無 線デジタル 移動通信設 備
合 計								57,570			

□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和 7 年 6 月 30 日現在)

整理 番号	区 分		品 名・規 格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	2-1	パーソナルコンピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ(一式) Pro6300	毎日(200日) 情報等授業	令和2年1月	円 2,647,073
2	2-1	その他の情報処理機器	無線LANアクセスポイント Aruba IAP-305	毎日(365日) 校内18室無線LAN運営	令和2年3月	1,567,500
3	10-7	鍵盤楽器	鍵盤楽器 カワイ グランドピアノ	毎日(200日) 音楽授業	令和4年2月	990,660
4	10-8	その他の芸術用器具	電気陶芸釜 エイコー製H-2	月1回(年間10日) 美術図工授業	平成9年10月	925,000
5	2-2	放送装置	放送装置 WL-SA122、WU-P52、 EV-20R、WU-R72	毎日(200日) 校内放送	平成24年12月	924,000
6	2-1	その他の情報処理機器	校内LANサーバー HP DL320	毎日(年間365日) 校内LAN運営	平成21年7月	793,800
7	1-4	たな	たな 形鋼棚	毎日(年間365日) 防災用品等保管	平成20年2月	756,000
8	1-4	たな	形鋼棚 3.2mm鋼材	毎日(年間365日) 体育器具等保管	平成15年3月	703,500
9	3-3	プロジェクター	移動プロジェクター 一式	週2回(年間80日) 各教科授業	平成31年3月	693,360
10	1-4	戸棚	戸棚(壁面収納庫) 900W×450D×4組	毎日(年間365日) 文書等保管	平成9年11月	687,000
11	1-4	書類収納庫	システム収納庫 オフィスユニット42シリーズ	毎日(年間365日) 文書等保管	平成6年3月	644,400
12	10-7	打楽器	打楽器 長胴太鼓2尺 平置台共	週1回(年間40日) 総合学習、交流活動	平成17年8月	640,000
13	10-7	鍵盤楽器	鍵盤楽器 デジタルグランドピアノGP-607	週2回(年間80日) 音楽授業、学校行事	令和2年12月	550,000
14	2-1	その他の情報処理機器	校内LANサーバー等 一式	毎日(年間365日) 校内LAN運営	平成29年3月	529,308
15	6-9	木工用機械	かんな盤 イスベットNK-16	月2回(年間20日) 技術授業	昭和55年10月	518,000
16	3-3	その他の視覚用再生用機器	その他の視覚用再生用機器 IS-77PN+e-黒板アシスタントV3.0セット	月1回(年間10日) 授業	平成26年10月	507,600
17	1-4	移動書庫	移動書庫 カム4953BM3連2列	毎日(年間365日) 文書等保管	平成2年1月	450,000
18	2-1	レーザープリンター・スキャナ	大判インクジェットプリンター image PROGRAF	週1回(年間40日) 授業、学校行事	平成22年11月	445,725
19	1-7	その他の書類整理機器	丁合機 RISO TC7100	週1回(年間40日) 学校運営用書類 授業用資料	平成29年3月	437,400
20	6-9	木工用機器	丸のこ盤 ECR-16S型安全器付	月2回(年間20日) 技術授業	平成8年3月	435,999

□□□□□□

公務中の事故等に関する調

1 現金、財産及び占有動産の亡失・損傷事故

該当なし

2 公務災害（通勤災害を含む。）

該当なし

3 公務中における交通事故

(1) 発生状況

区 分	件 数	事故の内訳		
		加害事故 (過失割合 50%超)	被害事故 (過失割合 50%以下)	その他 (過失割合が不 明なもの等)
令和4年度	0	0	0	0
令和5年度	0	0	0	0
令和6年度	0	0	0	0
令和7年度	0	0	0	0

(2) 監査対象期間中の事故

該当なし

4 その他

該当なし

□□□□□□

工事中の事故に関する調

1 工事中の事故発生状況（年度単位で記載する）

（令和 7 年 6 月 30 日現在）

区 分	第三者事故					工事等の関係者事故				もらい事故 （負傷者のみ）	
	件数	死亡	重傷	軽傷	損害のみ	件数	死亡	重傷	重症以外	件数	死傷
令和 5 年度	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 人
令和 6 年度	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 人
令和 7 年度	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 件	0 人	0 人	0 人	0 件	0 人

2 工事中の事故の内容（前年度予備監査（工事技術）の翌日から本年度予備監査（工事技術）の当日まで期間内に発生したものを記載する）

該当なし

様式第 3 5 号

前回の監査結果等改善状況調

1 定 期 監 査

前 回 監 査 令和 6 年 11 月 21 日

前回監査対象期間 令和 5 年 6 月 1 日～令和 6 年 7 月 31 日

区 分	改 善 状 況
1 指 摘 該当なし	
2 注 意 該当なし	
3 意 見 該当なし	
4 指 導 該当なし	

□□□□□□

職 員 調

(令和7年6月30日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校長	湯 本 健 治	総 括	□ □ □	□年□月	□□□□□□
2	教頭	山 梨 真 理	総括補助	□ □ □	□年□月	□□□□□□
3	事務長	中 島 暁 子	事務総括	□ □ □	□年□月	□□□□□□
4	教諭	小 楠 賢 明	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
5	教諭	小 林 高 志	社 会	□ □ □	□年□月	□□□□□□
6	教諭	高 木 秀 一	理 科	□ □ □	□年□月	□□□□□□
7	教諭	甲 斐 憲 子	家 庭	□ □ □	□年□月	□□□□□□
8	教諭	犬 塚 暢 明	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
9	教諭	高 岡 克 典	数 学	□ □ □	□年□月	□□□□□□
10	教諭	権 田 典 道	理 科	□ □ □	□年□月	□□□□□□
11	教諭	杉 浦 知 香 枝	数 学	□ □ □	□年□月	□□□□□□
12	教諭	鈴 木 洋 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
13	教諭	宮 本 美 幸	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
14	教諭	大 高 千 穂	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
15	教諭	金 子 将 哉	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
16	教諭	前 田 有 俊	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
17	教諭	増 田 太 一	保健体育	□ □ □	□年□月	□□□□□□
18	教諭	永 井 み どり	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
19	教諭	仲 村 桃 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
20	教諭	庵 友 也	技 術	□ □ □	□年□月	□□□□□□
21	教諭	近 藤 明 仁	保健体育	□ □ □	□年□月	□□□□□□
22	教諭	牧 内 朋 子	保健体育	□ □ □	□年□月	□□□□□□
23	教諭	富 岡 孝 宏	数 学	□ □ □	□年□月	□□□□□□
24	教諭	山 内 千 尋	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
25	教諭	落 合 将 之	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
26	教諭	長 田 春 奈	国 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
27	教諭	松 本 笑	保健体育	□ □ □	□年□月	□□□□□□
28	教諭	野 末 怜 司	数 学	□ □ □	□年□月	□□□□□□
29	教諭	加 藤 充	音 楽	□ □ □	□年□月	□□□□□□
30	教諭	山 本 有 美	英 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
31	教諭	後 藤 頼 香	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
32	教諭	鈴 木 勇 亮	英 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
33	教諭	相 曾 愛 美	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
34	教諭	鈴 木 悠 記 子	英 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□

35	教諭	川 村 美 奈 子	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
36	教諭	川 井 史	音 楽	□ □ □	□年□月	□□□□□□
37	教諭	柴 田 早 紀	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
38	教諭	澤 井 映 里	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
39	教諭	笹 木 美 咲	保健体育	□ □ □	□年□月	□□□□□□
40	教諭	石 原 美 佳	国 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
41	教諭	佐 野 紗 智 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
42	教諭	榎 本 な ほ 子	国 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
43	教諭	小 高 舞 子	数 学	□ □ □	□年□月	□□□□□□
44	教諭	小 野 由 姫	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
45	教諭	内 山 夏 歩	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
46	教諭	高 木 徹 也	社 会	□ □ □	□年□月	□□□□□□
47	教諭 (任)	鈴 木 由 彦	英 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
48	教諭 (任)	森 貴 史	国 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
49	教諭 (任)	村 松 は る 香	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
50	養護教諭	池 田 亜 希 子	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□□□
51	主査	大 場 優 子	管 財	□ □ □	□年□月	□□□□□□
52	主査	山 本 桂 子	庶 務	□ □ □	□年□月	□□□□□□
53	主査	青 木 陽 子	会 計	□ □ □	□年□月	□□□□□□
平均年数					2年8月	

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教諭 (臨)	池 谷 秀 樹	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
2	教諭 (臨)	大 柴 充 代	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□□□
3	教諭 (臨)	竹 村 沙 希	公 民	□ □ □	□年□月	□□□□□□
4	教諭 (臨)	荒 井 佳 子	国 語	□ □ □	□年□月	□□□□□□
5	教諭 (臨)	平 尾 美 樹	訪 問	□ □ □	□年□月	□□□□□□
6	養護教諭 (臨)	永 田 乃 愛	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□□□
7	会計年度 任用職員	安 中 智 恵 美	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□□□
8	会計年度 任用職員	池 沼 明	用 務	□ □ □	□年□月	
9	会計年度 任用職員	國 分 孝 師	用 務	□ □ □	□年□月	
10	会計年度 任用職員	鈴 木 梓	音 楽	□ □ □	□年□月	□□□□□□
11	学校医	豊 田 敦	内 科	□ □ □	□年□月	
12	学校医	清 水 敏 也	耳 鼻 科	□ □ □	□年□月	
13	学校医	鈴 木 眞 貴 子	眼 科	□ □ □	□年□月	
14	学校医	山 村 淳 一	精 神 科	□ □ □	□年□月	
15	学校歯科医	大 城 清 孝	歯 科	□ □ □	□年□月	
16	学校薬剤師	奥 田 百 彦	薬 剤	□ □ □	□年□月	
17	健康管理医	太 田 邦 明	内 科	□ □ □	□年□月	

□□□□□□

職員の年齢調

(令和7年6月30日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	5	
30歳以上40歳未満	13	
40歳以上50歳未満	15	
50歳以上56歳未満	11	
56歳以上61歳未満	7	
61歳以上	2	再任用職員1人
計	53	平均年齢 45歳4月

□□□□□□

健康 管理

1 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 50人 職 員 数 50人
受 診 率	100.0%
県 平 均 受 診 率	100.0%

(1) 未受診の理由

2 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	2(2)人
D 2		要経過観察	10(10)人
D 3		医 療 不 要	31(31)人
区 分 者 計			43人
未区分者数			6人
合 計			48人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア	産休・育休	5人
イ	新規採用	0人
ウ	自己都合による未受診	1人
エ	そ の 他 ()	0人